

## 「花手水」新たな観光スポットに

「花手水（はなちょうず）」とは、神社やお寺などにある手水舎（ちょうずや）一面に花を浮かべたもので、京都の柳谷（ようこく）観音楊谷寺が先駆けといわれる。新型コロナウイルス感染対策のため、多くの神社・仏閣で手水舎の使用を禁止しているが、参拝者に癒しを提供したいとの思いから、花手水を行う神社・仏閣などが全国に広がっている。

花手水は新しいフラワーアートであり、「SNS（ネット交流サービス）映え」するスポットとして人気で、これまで神社・仏閣に足を運ばなかった人も花手水を目的に訪れている。

休日になると、近くの神社でも、花手水に向けてスマホを構える女性や、一眼レフカメラを構える写真愛好家の姿を多く見かける。

最近では、四季折々の花手水と合わせたカラフルで魅力あるデザインの御朱印も授与され、人気となっている。

埼玉県行田市では、花手水を観光資源として積極的に活用している。神社・仏閣を中心に町の商店や民家の軒先にも花手水を飾る「花手水WEEK」、ライトアップイベントの開催、「花手水マップ」を作製し、花手水巡りで地域に少しでも長く滞在してもらうなどの観光戦略を立てている。

三重県内でも桑名市や鈴鹿市、明和町などで花手水が見られる神社・仏閣がある。クリスマスやバレンタインなどの行事をテーマにしたり、金魚や動物の小物を使ったり、オリジナルティーあふれる花飾りで迎えてくれる。

明和町の観光地域づくり法人（DMO）では、斎王ゆかりの地とされる竹神社の花手水を観光資源として、SNSを活用したプロモーションや新ビジネスにチャレンジしている。

春を迎え、たくさんの花が咲くシーズン。今しばらくは全国各地で色鮮やかで魅力的な花手水が多く参拝者や観光客を魅了することであろう。

（コンサルティング事業部 経営コンサルティンググループ 主任研究員 慶徳 亘紀）